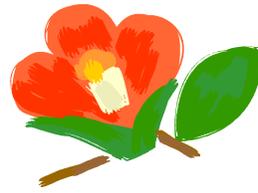


つよく・やさしく・心をこめて

三勲小だより



平成29年12月4日(月)

<全校朝会の話>

寒くなり、こたつやストーブが恋しい季節になりました。先日の全校朝会では次のような話をしました。

寒くなってきましたね。皆さん元気ですか。今日も朝から外で遊んでいる人がいましたね。これからもっと寒くなってきますが、外で縄跳びをしたりマラソンをしたり遊んだりして寒さに負けない元気な身体をつくりましょう。さて、もうこたつやストーブを出しているお家もあるでしょう。校長先生は、今日はこんなものを持ってきましたよ。・・・これは何をやるものなのでしょう。そうですね。ストーブに灯油を入れる道具です。こうやって使っていると、灯油のタンクを傾けなくてもこちらからこちらに灯油が入るととても便利なものです。名前を「簡易給油ポンプ」と言います。簡易というのは簡単ということで、給油というのはストーブに灯油を入れるという意味です。

この道具は誰が発明したか知っていますか。これを発明したのは、日本人のドクター中松という人です。本当の名前は中松義郎さんと言います。では、どうしてこの道具が生まれたのでしょうか。

ドクター中松さんが14才の寒い冬の日でした。お母さんが醤油の大きい一升瓶から小さい醤油差しに醤油を注ごうとしていました。一升瓶というのはお酒などが入っている大きな瓶ですね。でも、今日のようにとても寒い日だったので、手がかじかんでなかなか移し替えることができません。だからお醤油がこぼれていました。その姿を見ていた中松少年は、大きな一升瓶を立てたまま醤油を移し替えることができれば、お母さんの苦労は減るだろうなと思いました。そして考えに考えて発明したのがこの道具です。

今はストーブの灯油を入れるのに使われるこの道具は始めはお醤油を入れるのに使われていたのです。だからどんな名前だったと思いますか。・・・正解を見せますよ。

「しょうゆチュルチュル」。おもしろい名前でしょう。これは本当なんです。この「しょうゆチュルチュル」はその後、ストーブに灯油を入れる道具としてどのお家でも使われるようになったのです。

では、中松少年はどうしてこんな発明ができたのでしょうか。それは、まず、困っているお母さんを助けようと思ったからです。自分のために発明したわけではありません。困っているお母さんを何とかして助けようとする優しい心があったから発明できたのです。

そして、その次は粘り強く考えたということです。中松少年はこの「しょうゆチュルチュル」をすぐに思いついた

のではありません。長い時間かけて考えて何回も試してやっとこの形が生まれたのです。あきらめていたらこの発明は生まれなかったでしょう。

皆さんも学校やいろいろなところで、困っている人を見かけたら、知らん顔をしないで、どうしたらいいか一緒に考えましょう。そして、困ったことや解決したいことがあったらすぐにうまくいなくても、いろいろなアイデアを出して粘り強く取り組みましょう。

今日は「しょうゆチュルチュル」の発明から「困っている人がいたら助けましょう」「粘り強く考えましょう」というお話をしました。

お家にこれがある人はお家の人に教えてあげてくださいね。でも、一つ気をつけてください。お店でこれを見ても大きな声で「あっ『しょうゆチュルチュル』だ!」と言っははいけませんよ。周りの人が笑うかもしれないから、小さい声で言ってくださいね。

これで校長先生のお話を終わります。



<小中の絆づくり：みさ中先生>



11月14日(火)と16日(木)に操山中学校の1年生が学習支援のために三勲小学校に来ました。これは昨年度から実施している取組で、小中連携を深めるとともに、中学生の自己有用感の向上と小学生の中学校生活への不安の解消を目的としたものです。本校だけでなく宇野小学校でも同じ取組を行っています。

当日は、4年生から6年生までの各教室に数人ずつの中学生が入って、5校時の学習の支援を行いました。始めはお互いに少し緊張していた様子でしたが、次第に打ち解けてきて、小学生が分からないところを中学生に尋ねたり中学生の方から「どこが難しい?」などと声をかけて手助けしたりする姿が見られるようになりました。

上級生だった先輩の、中学生として成長した姿を見たり、優しく勉強を教えてもらったりしたことで、子どもたちは中学生を身近に感じ、中学校生活への期待を高めることができたことだと思います。

<道徳が特別の教科になります>

昭和37年頃に流行った植木等さんの「学生節」という曲の中に「道徳教育こんには、押しつけ道徳さようなら♪」という歌詞があることを先日知りました。

この頃特設された道徳が、この度の学習指導要領の改訂によって、「特別の教科 道徳」(道徳科)として60年振りに新たにスタートすることになりました。他の教科等の全面実施は平成32年度からですが、道徳については、来年度から全面実施されます。そして、国語や算数などと同じように教科書検定制度によって採択された道徳の教科書が無償給与されることになりました。(これまでは副読本を使用していました。)

この改訂では、例えば読み物の登場人物の気持ちを読み取ることに偏ったり価値を押しつけたりすることなく、子どもたちが道徳的な課題を自分の問題として捉え、友達と共に考え議論する中で、よりよい生き方を見つけていくことが大切であるとされています。

本校では、昨年度より岡山市教育委員会の「道徳授業のプロデューサー事業」に応募し、外部講師を招聘しての研究を行っています。(今年度の実施校は京山中学校と本校の2校です。)3学期には市内の学校への授業公開も予定しています。

人は皆、よりよく生きたいという願いをもっていますが、反対にやすきに流される弱さももっています。それは子どもたちも同じです。困難にあって立ち止まったり逃げ出したりしたくなくても、人としての強さや気高さを信じて困難を乗り越えた時に、生きる喜びを感じることができるのです。子どもたちがよりよく生きる喜びを感じられるような道徳をめざして今後も研究を続けていきたいと思ひます。

<三勲小の一部>

小学校の南門の横、体育館裏に今、とてもきれいに赤く色づいている木があります。これは「楷(かい)の木」です。楷の木は閑谷学校のものがある有名ですね。枝や葉が整然としているので、毛筆の楷書の語源になったとも言われています。また、孔子廟に植えられていたのを日本に持ち帰ったので「学問の木」ともされています。

三勲小学校の子どもたちもこの木にあやかって、ますますおこしくなりますように。

